

お元気ですか 先輩

VOL. 3

松下 悟さん(25)

香川県済生会病院

(平成 28 年度普通科特別進学コース卒業)



●緑内障治療の専門医を目指しています

昨年 3 月に香川大学医学部を卒業し、現在は初期研修医として香川県済生会病院に勤務しています。総合内科の初診を担当したり、眼科の手術を見させてもらったり、結構忙しいですね。今年 12 月には香川大学医学部附属病院に戻って眼科の専攻研修を受ける予定です。目標は緑内障治療の専門医。緑内障で悩んでいる患者さんが多いので、外来でしっかりコミュニケーションをとりながら治療に当たり、患者さんに寄り添える医師になりたいと思っています。

●小学校の卒業アルバムに、将来の夢は「医者」

両親ともに勤務医の共働きでした。二人とも休日出勤のときは母の勤務先の病院が僕の居場所。診察室にも時々入ったりして仕事をしている母の背中を見て育ちました。医者になるろうという気持ちはごく自然に膨らんでいったと思います。小学校の卒業アルバムに、将来の夢は「医者」と書いたのを覚えています。

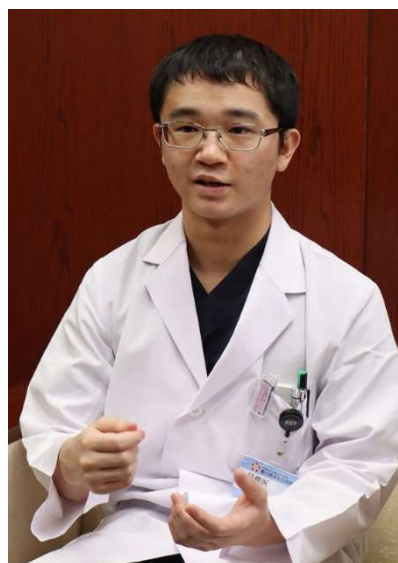
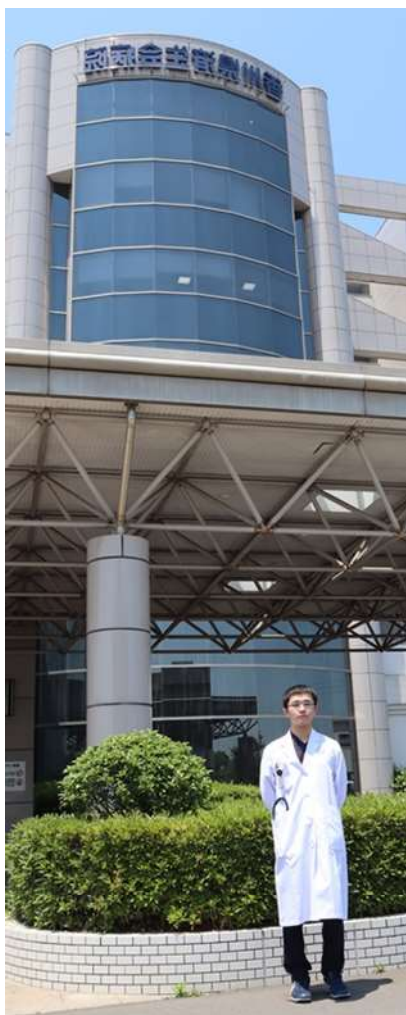
●僕一人のために夜遅くまで指導、ありがたかった

特進コースでは課外授業に鍛えられました。平日は午後 9 時ごろまで、土曜日午前中、3 年次は終日という、かなりのハードスケジュール。唯一休みの日曜日が模試で埋まって 3 か月間休みがなかったときは、さすがにきつかったです。でも、おかげで偏差値がみるみる上がって、勉強が楽しくなりました。

大学入試の二次試験を控えた時期には、試験科目の多い僕一人のために先生方が居残り夜遅くまで指導してくれました。ありがたかったです。でも、勉強一本やりじゃなくて、いたずら好きな先生、冗談好きな先生もいて、楽しいクラスでした。

●国立大学医学部合格第1号

理数系はもともと得意。英語が苦手でしたが、そんな時に担当の先生から言われたのが「細かな文法にとらわれず、分からない単語が出てきても文脈から推測して長文を和訳していきなさい」。単語帳を引くのが面倒くさい僕には、このやり方が合っていたんでしょうね。我慢強く取り組んでいるうちに、英語の成績が飛躍的に良くなっていきました。苦手教科がなくなったことで受験に自信がついて、学校で初めて国立大学医学部に合格でき、卒業時には成績優秀で理事長賞をいただくことができました。



●休日をもっぱらゲーム

根っからのインドア派。休日は家でゲームをやっていますね。子どもころから大好きでした。コツコツとレベルを上げていくゲームが好きで、RPG が得意です。自分がこれまでやってきた勉強の仕方と共通点があるような気がします。

●受験で燃え尽きてしまわないように

医療従事者を目指す後輩に伝えたいのは、受験勉強で燃え尽きてしまわないようにということ。医学部に入ってからの方が勉強は大変です。成績が良いからという理由だけで医学部に入ると、医学の勉強が面白くなくて続かなくなる。現に、僕の周囲でドロップアウトした学生を何人か見てきました。医師の仕事に魅力を感じ、その忙しさにも耐えられるという強い気持ちがあれば、もちろん医療の道を目指して頑張りたいと思います。

(令和6年6月取材)

お元気ですか 先輩

VOL. 2

小松 美海さん (19)

香川トヨタ自動車株式会社管理部経理課

(令和4年度商業科卒業)



● 突然の異動

最初に就職したのはグループ会社のトヨタレンタリース東四国。受付を担当していましたが、お声がけいただく形で今年2月に現在の会社に転籍しました(*)。お客様と接する仕事は楽しかったし、まだ1年足らずだったので少し未練はありましたが、もともと得意なパソコンを生かせる事務職志望だったこともあって、望まれての転籍のお話はうれしかったです。

* 管理部採用教育人事課の三浦篤史課長によると「すごく能力のある子と評判でした。ぜひわが社に来てほしいとお願いして、転籍を認めてもらいました」

● 数字がピタッと合った時の快感

経理事務に携わって4か月。最初は環境ががらりと変わったので戸惑いもありましたが、先輩方に助けていただいて、だいぶ慣れてきました(*)。それでも、締め日までに請求書をまとめるのは大変。ゴールデンウィークなど休みが続いた後は請求書や伝票類がどっさり舞い込むので、ちょっとしたパニックになることも。でも、数字がピタッと合った



時やスムーズに業務が運んだ時はうれしくて、やりがいを感じます。経理ってお堅いイメージがあるかもしれませんが、みなさん明るくて、楽しい職場です。一番の楽しみは昼休み。会社のランチルームで先輩と一緒に弁当を囲んだ後の、おしゃべりがたまりません。

* 再び三浦課長のお話「基礎ができているので、とても呑み込みが早いです」

● クラスメイトや先生と共有した時間。かけがえのない宝物

高校生活は新型コロナとともにあった3年間でした。入学後すぐに2か月間の臨時休校になり、学校再開後も体育祭や文化祭は中止や短縮開催、修学旅行も取りやめに。そんな中、制限が少し緩くなってからは情報処理や簿記実務、商業経済などの検定の勉強で放課後居残りをして、遅くまで勉強したことがいい思い出です。同じ目標に向かって友達や先生と一緒に過ごした日々は大変ではありましたが努力した分、忘れられないものとなりました。担任の先生が親切で、頑張ったら、ごほうびのチョコレートやアメ玉をくれたりしました。このごほうびも努力できた理由の一つかもしれません。

● 皆勤賞にはこだわりました

コロナの制約がいろいろあった3年間でしたが、皆勤賞にはこだわりました。小学校の時からずっと欠席ゼロだったので、そのプライドがあったのだと思います。無遅刻、無欠席で、卒業時に皆勤賞をいただきました。

(*)

* 小柳武就職支援室長のコメント「3年次に面談した際、とても明朗でしっかりしていて、成績はクラスのトップ、しかも無遅刻、無欠席と聞いて感心しました。希望していた業務に就き、職場のみなさんにかわいがっていただきながら成長している姿に接して、うれしいですね」

● 生徒会活動は良い経験になりました

友達や先生に誘われて入ったので、正直最初はあまり気乗りがしませんでしたし、“生徒会”と聞くと、少し堅い印象がありました。

ですが、いざ入って行ったことは体育館にある大きな壁画の作成や主に体育祭や文化祭、オープンスクールなどイベントの運営でした。想像していたイメージとは裏腹に、中学生の頃から楽しみにしていた行事に携われたこと、空が暗くなるまで友達と準備したこと、“学生らしさ”を生徒会ですごく味わえたなど今になって思います。



●資格取得はぜひ。自信につながります

商業科の生徒なら、やはり検定が大事だと思います。資格取得が自信につながり、仕事で役立つのはもちろんですが、目標に向けて頑張った経験が自分の糧にきつとなります。しんどくて投げ出したい時もあると思いますが、友達と励ましあい、先生の助けをお借りしながら、乗り越えてほしいです。

(令和6年6月取材)

お元気ですか 先輩

VOL.1 杉野雅哉さん(24) 岡山大学病院薬剤部

(平成 29 年度普通科特別進学コース卒業)

各界で活躍している本校卒業生を紹介する新シリーズ「お元気ですか 先輩」を随時掲載します。第1回は今春、岡山大学薬学部を首席で卒業し、同大学病院の薬剤師として社会人のスタートを切った杉野雅哉さん(24) =平成 29 年度普通科特別進学コース卒業=です。



■6年前、自らに誓った「首席卒業」

センター試験トップの成績で薬学部に入りましたが、オリエンテーション担当の教授から「入試の成績と GPA (大学の成績) とは関係がない」と言われ、「よし、それなら自分がやってやろう」と心に決めました。給付型奨学金をたくさんいただき、授業料も免除してもらっていましたが、勉強するだけで、お金をいただけるのですから、ありがたいこと。「勉強も仕事だ」と、6年間頑張りました。

■大震災がきっかけ、「薬剤師になる」

小学5年の時、東日本大震災が発生。医療従事者が足りないという報道を見て、将来は薬剤師になろうと。被災地で奔走する姿は、子供心に「カッコイイ」と思えたんですね。高校時代に一時、進路に迷ったこともありました。物理が大好きだったので、その方面に進もうかなあと。でも、自分はアインシュタインにはなれないと思って、初志に戻りました。

■大学院生との二刀流

4月から大学病院の薬剤部に籍を置き、調剤業務に携わっています。薬剤師の仕事の流れは、処方箋の内容が正しいかどうかチェックする「処方監査」→調剤(薬の準備)→調剤し

薬の種類や数量に間違いがないか確認する「調剤鑑査」→投薬と進むんですが、今は調剤の練習に励んでいます。例えば、錠剤がのめない人のために錠剤を潰して粉薬にして分包したり（＝散剤の分包）、薬をたくさん飲んでいる人や自己管理が難しい人のために一包化をしたり…ですね。業務に早く習熟して、いずれは、投与後の症状の変化などを見て「処方提案」できるようにになりたいと思っています。薬剤師の仕事と並行して、博士号を取得するため4月から大学院にも進みました。二刀流で、忙しい毎日です。

■人を診る薬剤師に

理想の薬剤師？ 人を診る薬剤師です。薬剤師は「対物業務」になりがちですが、医療は病気だけを診るのではなく、患者さんを診ることが大切。そのためには、医師や看護師ときちんと話ができ、チームを組める薬剤師になりたい。薬の知識はもちろん重要ですが、病態の知識も含めた医療全般についてしっかり学んでいきたい。



■受け取った熱量、今度は僕が還元したい

将来、研究者を目指すか、薬剤師として臨床を続けるかは分かりませんが、どちらの道に進んだとしても、そこで一番やりたいのは「教育」です。学部の6年間、学習塾でアルバイトし、初めは勉強を教える（教え込む）ことが仕事と思っていました。でも結局、勉強は本人のやる気次第と気づかされ、いかにやる気にしてあげられるかを真剣に考えるようになりました。実習に来る学生のモチベーションをどう上げるか、患者さんにいかに前向きに薬を服用しても

らうか。思えば、中学、高校時代に熱量の高い先生方から僕はやる気スイッチを押してもらってたんですね。受け取った熱量を、今度は僕が周囲に還元していきたいと思っています。

■級友、先生の他愛もない話に助けられました

特進コースでは先生方に親身にサポートしていただき、感謝していますが、3年の時、勉強をいくら頑張っても成績が横ばいで、へこんでいる時期がありました。そんな時、級友や先生が他愛もない話題で、さりげなく励ましてくれるんですね。ライダーキックの角度はどれが一番いいか、とか（笑い）。本当に仕様もない話なんですけど、助けられました。

■どんな自分でいたいのか、イメージして

高松中央高校の後輩に伝えたいのは、大学に進学するなら、大学卒業後にどんな自分でいたいのかをしっかりとイメージしてほしい。そこから逆算して、今やらないといけないことは何なのか、何を頑張るべきなのかを明確にし、それらに今から取り組むことが大切だと思います。

〈令和6年4月取材〉